

編集後記

「看図アプローチ」は、北海道教育大学岩見沢校で生まれました。鹿内は30年間岩見沢校に在職していました。『全国看図アプローチ研究会研究誌』記念の30号は、鹿内の岩見沢校での教え子たちが執筆した3編の論文で構成されています。

第1論文の白川陽一は、鹿内岩見沢校在職期間最後の指導学生です。白川は大学時代から一貫して「社会とつながる」ということを自らのテーマとしてキャリアを重ねてきました。現在の職場も大学の「社会連携室」というセクションです。第1論文は学生と企業が連携して行なったスケールの大きなSDGs実践の記録です。また、看図アプローチは活用範囲の広いメソッドであることを示してくれる重要な論文になっています。

第2論文の江草千春は岩見沢校英語教育専攻の卒業生です。江草は、鹿内の直接の指導学生ではありません。それでも江草は大学卒業後も、折に触れて私の研究室を訪れてくれました。また研究熱心な英語教員として活躍してきました。江草は、綿密な先行研究分析を重視した実践研究を重ねています。学問研究の王道を行く方法を取りながら江草は「看図アプローチを活用した定時制高校での英語授業モデル」を完成しつつあります。その成果の一端を記念の30号に掲載することができました。

第3論文の渡辺聡は、鹿内が岩見沢校に着任してすぐに担当した、第1号の指導学生です。卒業後は小学校教員となり、3つの学校で校長を務めた後大学教員に転身しました。渡辺はこの間ずっと鹿内と一緒に教育研究に取り組んでくれました。「創造的読み」の研究が「看図作文」→「看図アプローチ」の研究に発展していくプロセスにずっと伴走してくれました。渡辺は羽陽学園短期大学に勤務しています。現在、全国の短期大学は荒波にもまれています。羽陽学園短期大学も例外ではありません。渡辺は地域のエッセンシャルワーカー養成機関を存続させるため日々奔走しています。学生募集活動に多くの時間を取られますが、入学してくれた学生さんたちに実践力をつける取り組みにも力を尽くしています。今回は、地域のニーズに応える保育者を養成するために行なった看図アプローチ実践の記録を投稿してくれました。

記念の30号も看図アプローチの汎用性の高さ和社会的意義を感じさせる充実の研究誌になりました。

<表紙を読み解く>



今回は「表紙を読む」というより「表紙を紹介する」になります。
表紙写真は北海道教育大学岩見沢校です。本研究誌編集長の石田ゆきが撮りためていた写真の一部です。石田も岩見沢校の卒業生なのです。皆ここで鹿内と出会いそして看図アプローチの発展を支えてくれています。ありがたいことです。感謝。

文責 鹿内信善

全国看図アプローチ研究会研究誌 30 号

発行年月日 2026 年 9 月 30 日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員会

石田 ゆき

伊藤 公紀

溝上 広樹

織田 千賀子

鹿内 信善*

山下 雅佳実

渡辺 聡

(* 印は編集代表)

編集長・DTP・表紙デザイン・事務局長 石田ゆき

発 行 者 全国看図アプローチ研究会

〒 069-0826 北海道江別市あさひが丘 12-16

電話 090-2402-9204

kanzu-approach.com



ISBN978-4-9914030-3-3

ISSN 2760-9197